

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の方と自然な形で交流が行えるような基礎作りを行っている。可能な限り、地域の行事に参加し、ホームへ足を運んでいただける機会を検討している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関にホームの理念を掲げている。職員がホームの理念について共通の意識を持って関わられるよう、折に触れ話し合っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの活動を知っていただくため、ホームの便りをご家族に発行し、玄関に便りを置き自由に見ていただけるようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム近辺の環境に恵まれており、散歩の途中で畑仕事をしている方と挨拶をしたり立ち止まり会話をする機会がある。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りに参加させていただいたり、地域の子ども会がホームを訪問しクリスマス会を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	まだ、地域に浸透が薄いため地域の活動に参加する場がない。要望・機会があれば、ホームの培った成果を還元していきたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全体で行い点検し、意識の確認・確保ができるようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの日常的な活動や状況を報告し、参加者に意見・要望・質問をいただきサービス向上に活かしている。また、参加者の方から教えていただいた事などは、ホームの「たより」で報告している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との関係は薄いですが、実施指導時等にはホームを理解いただけるように説明を行っている。また、運営上分からない事があれば担当者にお聞きしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当ホームでは該当はないが必要性は認識している。研修会・勉強会で知識を習得している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議・ミーティングノート等で利用者の変化に気づく配慮をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にはご家族に対し重要事項説明書と契約書を読み説明をしている。また、ホームの取り組み、方針、ケアに対する心を説明し安心していただいている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の普段の会話の中から察したり、態度や行動を充分説明する努力をしている。月1回の会議では個別のケースカンファレンスを行っている。 意見箱の設置をしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には最近の様子を話したり、暮らしぶりやエピソードについてもお知らせしている。金銭については買い物をした場合、請求書で支払っていただいている。 3ヶ月に1回さくらだよりを発行している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常的にご意見がいただけるような雰囲気作りをしている。運営推進会議に出席していただき、他機関への意見もいただけるようにしている。意見箱の設置や家族会を開催している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体ミーティングで職員の意見、要望を聞いている。不満等は言いにくい部分もあるので、時々食事に誘ったりして意見交換を行う様になっている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の生活時間に合わせたローテーションを組んでいる。利用者の状態により、人数を配置し対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>事前に利用者についての申し送り、把握に努めており、自然に溶け込めるように図っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた研修会に、積極的に参加している。関連施設で行う勉強会にも参加をしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連する事業所との合同の行事、勉強会に参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労、ストレスが溜まらないように休憩時間に配慮している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員へ資格取得に向けた支援や便宜を図っている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には必ず、本人との面接をし、本人の理解に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの相談があった場合、家族が求めている事を理解するように傾聴している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、管理者が本人や家族の思いや状況を確認し必要としているサービスに繋げるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族の方にホームを見学していただいたり、短時間でも過ごすなど、場の雰囲気に馴染めるように家族と相談し対応している。必要に応じて、他のサービスを利用できるように調整をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方は人生の先輩であり、学ぶ事もたくさんあり、職員と共に途中で和やかに生活ができるよう支援をしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気付きの情報の共有に努め、一緒に本人を支えていく関係を築いていけるように配慮している。家族との情報交換を密にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日常生活を写真や電話などで報告し、相談がしやすい雰囲気、状況を作っている。 家族と共に外出をできるような行事も計画し、実施している。 面会時に家族と水入らずで過ごせるよう自室へお茶菓子やお茶・コーヒー等好みの物をお出してゆったりとした時間が過ごせるように配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人からの電話もよくあり、話ができればよいように配慮したり、掛けたい時は100番電話で対応している。 美容院も希望に応じて、行きつけの美容院に行っている。 生まれ育った近辺へのドライブに行っている。本人の要求にしたがって、知人や親族に電話を掛けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症のレベルや性格等に関わらず入居者様同士と一緒に生活する仲間として支えあっているよう支援している。入居者が孤立した生活をしないよう配慮している。辻褄の合わない同士の会話もあるが、職員が様子を伺いながら争いの無いよう間に入り、互いに理解できるよう援助している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院、退居されても近況を伺ったり、訪問したりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのできる事、要望を把握して個別に対応をしている。 個別の『生きがいプラン』を作成している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や関係者より情報をいただきこれまでの暮らしを把握しホームでの暮らしに役立てている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作からも感じ取り、その人の全体像を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族に日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き反映させている。又、月1回介護職員部会を開き、職員全体で意見交換を行い具体的な個別の介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	対応できない変化が生じた場合に、家族、主治医等に相談したり、介護職員部会で担当職員より議題としてあげ見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し食事、水分量、排泄、バイタルチェック等身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも全ての職員が確認できるようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、地域の交番所のお巡りさんや民生委員、婦人会の役員との意見交換を運営推進会議を通して行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望により協力医療機関へ機能訓練に通っている。	○	今後、近隣の施設でのパワーリハビリにも行く事ができるよう考えていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の回診が月2回あり、他に本人、家族の希望する医療機関にも受診するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損なわないように管理者が利用者に目を配り、職員の意識向上を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	表情を読み取ったり、行動を見て、個々に合わせた声かけを行い、本人の意思に添った支援を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調、状態に気を配り、一人ひとりの思いに添って柔軟に対応できるようにしている。一人ひとりの趣味を把握し、体調等に気を配り、声かけを行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の希望にあわせて、身だしなみやおしゃれを楽しんでもらっている。マッサージ、ハンドマッサージ、爪のマニキュア、眉を整えたりしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付け等利用者と共に行い、共にテーブルを囲み楽しく食事ができるようにしている。毎日の汁ものづくり、週に一度は利用者と共に献立を考え、買い物から食事作りを行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	アルコール類、タバコについては家族の希望により提供していないがアルコール類については行事時に希望者には提供している。 おやつについては、本人の希望にあわせて買い物に行き、好みのおやつを購入している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンをとり、オムツをできる限り減らせるよう支援している。入居時に1～2週間の排泄パターンを記録し、可能な限りトイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む人については、声かけや対応の工夫を行い支援している。仲の良い利用者同士一緒に入浴し、温泉気分を楽しんでいる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調の変化等を観察し日中はできる限り活動できるような支援を行い夜間は気持ちよく眠れるよう支援している。室内外の散歩、ドライブを行い気分転換を図っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りを手伝ってもらったり、裁縫が得意な方には縫い物をしていただいたりと張りのある生活を過ごされている。職員との卓球対決を行い楽しみを持ち、張り合いや喜びを利用者が感じるよう配慮している。『これはできない』と考えるより、『何ができるか』のみを考えて、利用者の生活に張りがもてるような支援をしている。	○	食事作り等はできる利用者に偏りがちになりつつあるので、他の方も側に来ていただき、利用者の和を広げ生活に張りもてる支援にしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方には本人の確認のもと所持している。利用者が買い物に行く時などは自由に使えるように配慮している。金銭管理のできない利用者は外出した時に欲しいものを買い物して頂き、後で家族に請求している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や気分に応じて個別に施設近辺を散歩したりし、気分転換に繋がる支援をしている。仲の良い利用者同士手をつなぎ、お喋りしたりして楽しまれている。歩行が不安定な利用者には車椅子・歩行器等使って外出支援をしている。	○	外出援助をする時間帯が限られるのでできるだけ希望される時に対応していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	観劇・映画・観光等利用者の希望を伺い計画している。家や家族の事が気になる方にはご家族の協力のもと外出をしている。また、家族会を開きご家族との団欒を過ごせる機会を設けたり、遠足を行っている。	○	利用者本人から訴えがなくても日常の会話の中で把握し活動したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば電話を取り次いでいる。子機を利用しプライバシーにも配慮し家族や友人に電話しやすい環境を作っている。又、手紙・年賀状等を出す支援をしている。遠方で面会に来られない家族には写真入りの近況報告のハガキを送っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決めていない。いつでも気軽に訪問していただける。ご希望のスペースでお過ごしいただけるように配慮し、湯茶をサービスしつくろいでいただいている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドより転倒の危険性のある方にはベッドを使用せず絨毯を敷き対応し危険を回避している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出する気配があればさりげなく声かけをして誘導したり、行動を共にして安全面に心がけ自由な生活を支援している。又、関連の施設の方との協力体制ができています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	介護者は常に利用者の動きを把握できる位置に居るように心がけ、記録をする際もすぐに対応できる場所で行っている。自室で過ごされる方に時々訪室様子を伺ったり声かけをしている。夜間は夜勤者が見守り常に対応できる体制がある。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物・薬・洗剤等は目に入りにくい場所に保管し、電気器具等はコンセントを抜いて対応している。保管場所については職員間で話し合い場所を決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	インシデント報告書を作成し状況の把握をし対策を検討している。また、各種の事態を想定して避難訓練を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	関連施設での合同勉強会に参加し習得している。緊急時や応急手当のマニュアルを掲示し、いつでも活用できるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各種の想定をして避難訓練を行っている。関連施設と合同で年1回消防署、地元の消防団に加わっていただき訓練を行っている。又、運営推進会議等でも地域の方に協力をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日頃から面会時には利用者の方の現状を説明しご家族に理解をいただいている。状態変化のあった時は電話で説明しご家族に見ていただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は日々の状態をケース記録や連絡ノートで把握している。食欲・バイタル・顔色・様子や行動の変化が見られる場合は医療へ連絡し指示を受ける。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成をし職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡すか直接介助し服用を確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便のチェック、便秘気味の方には乳製品を取り入れ調子を整えている。水分摂取量も記録し参考にしていく。散歩・体操を毎日の日課に取り入れ体を動かす機会を作り自然排便を促すよう支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後歯磨きの声かけをし自分でできない方は介助している。義歯の方は食後洗浄・うがいを介助している。週2回は義歯洗浄剤で清潔を保っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はケース記録に記入し職員が情報を共有している。水分補給時好みの飲み物を伺い水分を摂取できるように配慮している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを常備し職員が周知できるようにしている。感染症に対して情報を収集し早期発見・対策・対応に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いは石鹸で行いペーパータオル・ウエルパスを使用している。布巾等は毎日消毒し使用している。冷蔵庫等は点検し食材の鮮度を確認している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭先に花や木を植え、玄関先には季節の花を置き雰囲気作りをしている。季節に応じた飾り付けを行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に利用者の言動に留意し、テレビの音量や採光に配慮している。また、料理を作っている時の香りを知らせ五感に働きかけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	階段の踊場に椅子とテーブル、窓際に椅子を置いて自由に使えるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	家族や本人の写真を飾ったり、好きな小物を飾って個々の 特徴を表現する居室を作る支援をしている。	○	ご家族の協力のもとに本人が使用していた物を活用できる ように支援したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	窓の開閉・換気扇の使用で空気のとどみを防止している。 温度の変化に留意し、利用者の様子や冷えに留意し調節す るようにしている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	利用者の状態に合わせて使用できるように手すりや浴室、ト イレ等の生活環境を見直し、浴室は滑らない工夫をし、シャ ワーチェアー・回転台等を使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	個々に合わせた居室の名札を取り付けたり、飾り付けをして いる。トイレの分からない方には大きく明示して判りやすくし たり、タンスの引き出しに何が入っているか表示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	庭先に椅子を出して外気浴をしたり、レクリエーションをして いる。	○	ベンチを購入予定しており、今以上に外回りでの活動が期 待できる。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域の方たちや周辺施設との交流会を行っている。例えば、クリスマス会・近隣のGHとの交流食事会・特養の浴室を借りて温泉交流会・保育園の子ども達との触れあい等を行っている。

入居者様一人ひとりのできること、ほんの少しでもできることを見い出して援助していく事を心掛けている。